

マタイによる福音書7章7-12節 「求める祝福」

1A 願い求め 7-11

1B 主が求めておられる応答

2B 「求めなさい(願いなさい)」

1C 聖書全体における命令

2C 弟子への命令

3C 願う時の条件

3B 「探しなさい(求めなさい)」

4B 「叩きなさい」

1C 開かれる戸

2C 福音を伝える使徒たち

5B 天の父からの賜物

2A 律法と預言者の黄金律 12

1B 「ですから」

2B 知っている良いこと

3B 隣人への愛

本文

マタイによる福音書7章を開いてください、私たちの山上の説教シリーズは終わりに差しかかっています。イエス様が、聞いている弟子たちに呼びかけておられます。「7 求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。8 だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。9 あなたがたのうちのだれが、自分の子がパンを求めているのに石を与えるでしょうか。10 魚を求めているのに、蛇を与えるでしょうか。11 このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っているのです。それならなおのこと、天におられるあなたがたの父は、ご自分に求める者たちに、良いものを与えてくださらないことがあるでしょうか。12 ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。」

1A 願い求め 7-11

1B 主が求めておられる応答

イエス様は、前回、裁いてはなりませんと教えられました。自分も裁かれるからだ、自分が量るものさしで、自分も量られる。兄弟の目から塵を取り除きたければ、自分の目にあり梁を取り除いてから、それを行いなさいと言われました。けれども、バランスが必要で、豚や犬に聖なるものを与えてはならないとも言われました。

このように教えられますが、これまでのイエス様の教えでもそうですね、自分の力では到底、できないことを主ご自身が知っておられます。自分が裁いてはいけなさと分かりながらも、裁いてしまいます。自分の目から梁を取ろうと思っても、兄弟の目にある塵が気になります。こうやって、自分は圧倒的に、主の教えに対して無力であることを知ります。けれども、主は、私たちが自分の力できるとして命じておられません。天の父からの恵みによって、その力によって行うことができることを知っておられます。「ヤコブ 1:17 すべての良い贈り物、またすべての完全な賜物は、上からのものであり、光を造られた父から下って来るのです。」それで、私たちが助けてください！と願い求めること、「求めなさい」という命令を与えられるのです。

求めなさい、探しなさい、たたきなさい、と教えておられます。ここには、あきらめてはいけません、というイエス様の思いがありますね。主は何度となく、祈るのにあきらめてはならないことを教えられました。不正の裁判官の喩えを思い出してください。やもめが、自分を守ってくれるように裁きを行ってくださいと頼んできました。彼は神を恐れず、人を人と思わない裁判官で、しばらく取り合わないでいました。けれども、「うるさくて仕方がないから、彼女のために裁判をしてやることにしよう。」と言いました。それでイエス様は、不正の裁判官でさえ願うことを聞くのだから、「ルカ 18:7 まして神は、昼も夜も神に叫び求めている、選ばれた者たちのためにさばきを行わないで、いつまでも放っておかれることがあるでしょうか。」と言われるんですね。正しい神は必ず訴えを聞いてくださる、ということです。ところが、問題があります。そこまで信じて祈っているか？忍耐を働かせて信じているか？ということです。そこで言われます。「18:8 あなたがたに言いますが、神は彼らのため、速やかにさばきを行ってくださいます。だが、人の子が来るとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」ですから、求めるだけでなく、探しなさい。探すだけでなく、戸を叩きなさい、と言われるのです。

2B 「求めなさい(願いなさい)」

1C 聖書全体における命令

主は、ご自分の御心、願われることを行われるのに、願う者を通して行われるようにしておられます。聖書の中には、何度となく、「願いなさい」という命令を与えておられます。ダビデの息子ソロモンが王に即位したとき、彼はまだ若かったのです。主が、その時、言われました。「Ⅱ歴代 1 章 1:7 その夜、神はソロモンに現れて仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。」」それで、ソロモンは、ものすごくたくさんいる民をきちんと治める知恵と判断力をくださいとお願いしたのです。すると、主はとても喜ばれて、知恵や判断力を与え、それに加えて、富も名声も与えることを約束なさいました。主は、私たちの遠慮する傾向とは異なるようです。こんなことを願ってしまつては恐縮で、おこがましいです、と私たちは思ってしまいます。そして主は、そのように願う自分に怒られるのではないかとさえ思います。けれども、主はその反対の方です。願いなさい、と言われます。

求めなさいと言われたのに、それを拒んだ者を咎められたことさえあります。預言者イザヤが、

王アハズに言いました、「イザ 7:11 あなたの神、【主】に、しるしを求めよ。よみの深みにでも、天の高みにでも。」けれども、アハズは、しるしを求めないと断ったら、「あなたは人々を煩わしていたが、わたしまで煩わすのか？」と咎められました。

主イエスご自身は、ここだけでなく、他のところでも何度となく、願い求めればそれを聞くことを約束されています。「マタ 18:19 あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。」一人だけでなく、二人が心を一つにして祈るなら、天の父はかなえてくださるということです。そして捕らえられる夜に主は弟子たちにご自身の愛を最後まで示されて、こう約束されました。「ヨハ 14:13-14 またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます。」「15:7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。」「15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。」父なる神は、私たちの願い求めをかなえることによって、ご自身の栄光を表そうとしておられます。

そして、使徒たちも教えました。ヤコブは手紙の中で、主が惜しみなく与える方だから、願い求めること、しかも信じて求めることを勧めています。「1:5-6 あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。ただし、少しも疑わずに、信じて求めなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。」惜しみなく、咎めることもなく与えてくださるのです。むしろ、そのことを疑うようなものなら、揺れ動くことになると教えています。そして、ヨハネは自分の手紙にも、こう書きました。「Iヨハ 3:22 そして、求めるものを何でも神からいただくことができます。私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです。」

2C 弟子への命令

今、ここでイエス様が弟子たちに対して命令し、約束をしておられることに気づいてください。そもそも、山上の説教において、主の教えを聞き、それを守るように言われている中で、「求めなさい」と言われていることに気づいてください。そして、父なる神がおられて、父が子によくしてあげるという中で、与えている約束であります。ですから、主の弟子であり、また神の子どもであるという関係性なしに、この約束を振りかざしても意味がありません。イエス様は、弟子たちに言われましたね、自分を捨てて、自分の十字架を背負い、そしてわたしについてきなさい、と。イエス様が苦しまれ、その後に甦られたように、私たちも古い人に死に、キリストにある新しい人に生まれたということを知って、その関係の中で初めて与えられています。また、神の子供についていうならば、フェ

ニキアの生まれの女が、イエス様が娘から悪霊を追い出してくださるようお願いしたところ、「マルコ 7:27 まず子どもたちを満腹させなければなりません。子どもたちのパンを取り上げて、子犬に投げてやるのは良くないことです。」と言われました。この女は信仰によって、子犬でもパンくずをいただきますと食い下がったので、娘は癒されましたが、信仰によってイスラエルの子孫、また神の子供になっているからこそ、その願いが聞かれるのです。

3C 願う時の条件

そして、イエス様が、「マタ 6:10 みこころが天で行われるように、地でも行われますように。」と祈りなさいと言われたように、神の国を求めている中での祈りです。神の御心を行うのにあたって、それで自分に知恵が欠けている、力がないという時に願うのが、この祈りです。先に読んだヤコブの手紙、またヨハネ第一に、それぞれ、祈りが聞かれることについての但し書きみたいなものがあります。「ヤコブ 4:2-3 あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。熱望しても手に入れることができないと、争ったり戦ったりします。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。求めても得られないのは、自分の快樂のために使おうと、悪い動機で求めるからです。」求めないという問題もありますが、求めても得られないのは、自分の快樂のためだと言っています。そして、ヨハネがこう言っています。「Ⅰヨハ 5:14-15 何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるといふこと、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。私たちが願うことは何でも神が聞いてくださると分かるなら、私たちは、神に願い求めたことをすでに手にしていると分かります。」御心に従って願うなら、神は聞いてくださるといふことです。

3B 「探しなさい(求めなさい)」

1C 聖書全体における命令

イエス様は、求めなさいと言われただけでなく、探しなさいと言われました。これは、もっともっと追及するということですね。熱心に願い求めるということでしょう。聖書全体で、「主を求める」という言葉でいろいろなところに書かれています。イスラエルが主に背を向けて、懲らしめを受けるけれども、「申 4:29 しかしそこから、あなたがたがあなたの神、【主】を探し求め、心を尽くし、いのちを尽くして求めるとき、あなたは主にお会いする。」探し求めるのですが、それを心を尽くし、いのちを尽くして求めます。そうすれば、主にお会いします。

ダビデが、イスラエルの民にこう言いました。「Ⅰ歴代 16:11 【主】とその御力を尋ね求めよ。絶えず御顔を慕い求めよ。」そして、息子ソロモンにもこう命じました。「Ⅰ歴代 28:9 わが子ソロモンよ。あなたの父の神を知り、全き心と喜びの気持ちをもって神に仕えなさい。【主】はすべての心を探り、すべての思いの動機を読み取られるからである。もし、あなたが神を求めるなら、神はあなたにご自分を現される。もし、あなたが神を離れるなら、神はあなたをとこしえまでも退けられる。」熱心に尋ね求めることによって、主がご自身を現わしてくださいませ。そして、ソロモンが神殿を建てた時に、主が言われました。「Ⅱ歴代 7:14 わたしの名で呼ばれているわたしの民が、自らへり

くんだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求めてその悪の道から立ち返るなら、わたしは親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地を癒やす。」尋ね求める中で、へりくだること、悪から立ち返ることがありますね。そして、ユダの王国アサに対しても、主がともにおられること、けれども尋ねるのをやめて、見捨てたら、主にも見捨てられてしまうことの警告がありました。

預言者にも、いろいろ語られました。「イザ 55:6 【主】を求めよ、お会いできる間に。呼び求めよ、近くにおられるうちに。」エレミヤを通して語られます。捕囚の生活を送る民に対する希望の計画です。「29:12-13 あなたがたがわたしに呼びかけ、来て、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに耳を傾ける。あなたがたがわたしを捜し求めるとき、心を尽くしてわたしを求めるなら、わたしを見つける。」こうやって尋ね求めたら、イスラエルの民は囚われの地から戻ってくるという約束があります。ホセアも、悔い改めの心を持ちながら尋ね求めなさいと主の言葉を伝えています。「10:12 あなたがたは正義の種を蒔き、誠実の実を刈り入れ、耕地を開拓せよ。今が【主】を求める時だ。ついに主は来て、正義の雨をあなたがたの上に降らせる。」

そして新約聖書では、ヘブル人への手紙 11 章で、信仰において尋ね求めることがいかに重要かを書いています。「11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。」

4B 「叩きなさい」

1C 開かれる戸

そして、叩きなさい、そうすれば開かれると言われる言葉ですが、まず、イエス様が教会に対して戸を叩いている様子が、ライディキアの教会に対してありますね。黙示 3 章ですが、そこにはわたしは愛するものを叱る、熱心に悔い改めなさいと言われて、それで語られています。イエス様は、こよなく愛しておられて、それで大きく語っておられ、ご自身が彼らと共に食事をするのを熱心に求め、叩いておられたのです。まるで求愛行為であるかのように叩いているのです。

そして、そのように私たちも戸を叩くべきであるのは、先ほどの不正の裁判官に対して、何度も訴えに来たやもめの姿にも見えます。また、寝静まったところで戸を叩きに来た喩えをイエス様は語られています。「」

2C 福音を伝える使徒たち

戸が開かれるというのは、新約聖書では、御国への戸がひられること、福音の戸が開かれるところで使われています。フィラデルフィアの教会に対して、ユダヤ人の会堂から追放された彼らに対して、「3:8 わたしは、だれも閉じることができない門を、あなたの前に開いておいた。」と言われました。そして、使徒たちが、第一次宣教旅行を終えた後に、こうあります。「使 14:27 そこに着くと、

彼らは教会の人々を集め、神が自分たちとともに行われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告した。」福音宣教において、閉ざされていたところに行くことができ、信仰者が起こされたことを、「門が開かれる」と言ったのです。「ルカ 11:5-8 また、イエスはこう言われた。「あなたがたのうちのだれかに友だちがいて、その人のところに真夜中に行き、次のように言ったとします。『友よ、パンを三つ貸してくれないか。6 友人が旅の途中、私のところに来たのだが、出してやるものがないのだ。』7 すると、その友だちは家の中からこう答えるでしょう。『面倒をかけないでほしい。もう戸を閉めてしまったし、子どもたちも私と一緒に床に入っている。起きて、何かをあげることはできない。』8 あなたがたに言います。この人は、友だちだからというだけでは、起きて何かをあげることはしないでしょう。しかし、友だちのしつこさのゆえなら起き上がり、必要なものを何でもあげるでしょう。」

5B 天の父からの賜物

そして、天の父からの賜物であることを、イエス様は教えられていますね。「9 あなたがたのうちのだれが、自分の子がパンを求めているのに石を与えるでしょうか。10 魚を求めているのに、蛇を与えるでしょうか。11 このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っているのです。それならなおのこと、天におられるあなたがたの父は、ご自分に求める者たちに、良いものを与えてくださらないことがあるでしょうか。」こうやって、悪い父であってもそうなのだから、ましてや、良いお方である父は、良いものを与えてくださらないことがないでしょう、と言われているのです。ルカによる福音書では、イエス様は聖霊を下さる約束のところで、このことを語っておられます。聖霊ほど、良き賜物はありません！

2A 律法と預言者の黄金律 12

12 ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。

1B 「ですから」

この「ですから」は、これまで主が律法と預言者についてずっとお語りになっていたこともかんがみながら語っておられるでしょう。「マタ 5:17 わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思っはなりません。廃棄するためではなく成就するために来たのです。」要はこれなのだ、人からしてもらいたいことは、他人にもするのだということです。直近では、天の父が良くしてくださると約束されたので、そのようによくしてもらうように、他の人にも良くするのだということです。

2B 知っている良いこと

この言葉はしばしば、「黄金律」と呼ばれています。他の宗教にも存在するものであって、キリスト教にもあると言われています。けれども、イエス様が語られたことは独自性があります。他の宗教では、「自分にしてもらいたくないことを、他の人にもするな。」という否定形になっています。例

えば儒教の孔子はこう唱えました。「己の欲せざるところ、他に施すことなかれ。」イスラム教のモハメットは、「自分が人から危害を受けたくなければ、誰にも危害を加えないことである。」と言いました。そして、新約聖書の背景にあるユダヤ教には、ラビの言葉で「あなたにとって好ましくないことをあなたの隣人に対してするな。」とあります。けれども、イエス様の教えは肯定形です。

3B 隣人への愛

ヤコブがこう言いました、「4:17 こういうわけで、なすべき良いことを知っていながら行わないなら、それはその人には罪です。」私たちは、何かをしていないことを誇りにします。嘘はついていない。盗んでいない。罪を避けているから、私は正しいということです。けれども、キリスト者は違います、具体的に愛を示すことによって、初めて御心を行っているということです。今、この時期に、私たちがコロナ対策で避けているのでは、御心を行っていません。もっと積極的に、教会では、集会ではクラスター対策をする努力をするのは当たり前、そうではなく、神が行いなさいと命じられていることを行っていく、愛し、助け、福音を語ることを怠らないのです。「ロマ 13:8-9 だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことは別です。他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。」